



# 民泊 江島さとや



江島さとや  
西海市崎戸町江島86 TEL.090-3999-8133  
info@enoshimasatoya.com  
江島さとや 検索

宿泊は1日1組限定。薪で沸かしたお風呂で温まった後は、島の魚や野菜を使った料理をいただく。島ならではのおもてなしは感激の連続!

「羊のミルクを使ったチーズにも挑戦したいですし、十年後には羊を百頭まで増やしたいですね……。福田さんの口からは次から次へと夢が語られる。その夢を叶えるために、福田さんは何よりも島の人たちの気持ちを大切に考えていた。「島の人すべてが私のことを応援してくれているわけではありません。でも島の人の理解を得るためには、私がんばらばって結果を出さなければいけません。江島にはかつて千三百人の島民がいたそうです。千三百人が暮らす島は難しいかもしれませんが、千三百人が訪れる島にはできる、そう信じているんです」。



は今、生まれ変わろうとしている。

# 江島を決して 無人島にはしない



一〇一七年三月、江島に民泊「江島さとや」がオープンした。女将の福田智美さんは波乱万丈の人生の末、この地で生きていくことを決めたという。

大阪生まれの福田さんは、四十歳の時に人生の折り返し地点に来た自分を振り返り、人と違ったことをしようと、ピースポーツに乗り世界一周の旅へ出た。そこでの出会いに刺激を受けた福田さんは日本語教師の資格を取得後、中国と日本で教鞭を執った。その間、女手一つで二人の子どもを育てあげ、両親の死も経験した。福田さんは「両親が亡くなった時、私は自分のことだけに一生懸命で、二人に何もしてあげられなかった」と深く後悔したという。

江島は福田さんの父の実家がある場所。小さい頃、遊びに来ていた時は「自然がいっぱいで、キラキラしている夢の島」だと思っていたが、お盆や法事で帰省するたびに島の人から聞いたのは「近い将来、江島は無人島になるかもしれないよ」という寂しい言葉ばかりだった。諦めた様子の島の人たちを見て、福田さんは「無人島になったら、私の夢の島はなくなってしまう!」と移住を決意。以来、五年の歳月をかけて情報発信を学ぶためパソコンスクールに通ったり、持っていた調理師免許をいかして料理を研究したりと、島へ戻る準備をした。

五十四歳で島へ移住した福田さんは、すぐに民泊をオープンさせた。島には宿泊するところがなかったため、江島の魅

力を伝えるためには泊まる場所が必要だと考えたのだ。しかし福田さんがやりたかったのは、宿泊施設の経営だけではない。あくまでも目標は「江島を無人島にしない」こと。そのためにいろいろな土地を訪ね歩いて得た知識と人脈で、江島を「羊とブルーベリーの島」にすることを思い立った。実際に山を切り拓いて造った牧場には六頭の羊が草を食べていて、今年の冬には二百本のブルーベリーを植えようと畑の準備が整っていた。「羊の毛を紡いで、ブルーベリーで染めたら「江島ウール」としてブランドができますよね」「江島の椿は品質が良いので、「江島オイル」を作ろうと思うんです」

「羊のミルクを使ったチーズにも挑戦したいですし、十年後には羊を百頭まで増やしたいですね……。福田さんの口からは次から次へと夢が語られる。その夢を叶えるために、福田さんは何よりも島の人たちの気持ちを大切に考えていた。「島の人すべてが私のことを応援してくれているわけではありません。でも島の人の理解を得るためには、私がんばらばって結果を出さなければいけません。江島にはかつて千三百人の島民がいたそうです。千三百人が暮らす島は難しいかもしれませんが、千三百人が訪れる島にはできる、そう信じているんです」。

羊の世話にブルーベリー畑の準備にと忙しい福田さん。その夢を叶えるため隣の平島から大工の林寅男さんが毎日手伝いに来てくれている。「今はブルーベリー工房を造っています。福田さんはパワフルな人。ここまできたらトコト付き合いますよ」と林さん。

